

『エル・サルバドルの考古学』

伊藤伸幸
(名古屋大学)

はじめに

メソアメリカ南東部においては、メキシコやグアテマラの2国で考古学調査が活発にされてきた。エル・サルバドルは内戦の影響もあり、一部の遺跡を除き長らく考古学調査の空白地域であった(図1)。

我々が実施している考古学調査は、1995-2000年の京都外国語大学調査を基としている。2000年からは、名古屋大学と文化遺産局を中心に、考古学調査を行っている。京都外国語大学の調査目的は、メソアメリカのメキシコ中央部地方で栄えたテオティワカン文化の波及に関してであった。現在の主な研究対象は、テオティワカン以前の文化を追求することである。

これらの調査結果から先古典期から古典期に亘るチャルチュアパ遺跡群の文化が判明してきた(図2)。今までの調査経緯と調査結果を検討する。

1. カサ・ブランカ地区調査

2000年に調査を開始した。調査の目的は、先古典期後期以前のチャルチュアパ遺跡群の様相を探ることであった。調査結果は以下のとおりである(図3)。

人為的な痕跡がないのは、第12層から下の層である。第14層の有機物の年代測定は紀元前8380 ± 40年である。これ以降に、カサ・ブランカ地区では人の活動がみられる。最初に何らかの活動が見られるのは697.00mと698.00mの間にあり、そのころには大きな建造物がない。居住の痕跡が見られる第11層では炭化物が出土しなかった。このためAMS年代測定から出された年代はないが、土壌から出土した土器の特徴から見ると先古典期中期末若しくは先古典期後期初頭が考えられる。次に、第10層をみる。この部分の年代測定をみると、紀元前93-19年である。

土器をみると、先古典期後期の可能性が高い。集落があった可能性が考えられる。この時期には石段を作ったり、段差を作ったりしている。次に、697.50mでは平らに地面を均していることが考えられる。そして、次の段階では、一度に約2m高くして、大基壇を造っていた。年代測定の結果である紀元後1-389年を考えると先古典期後期若しくは古典期前期となる。しかし、土器の特徴を考慮すると、先古典期後期の可能性が高い。そして、少なくとも6基の建造物を建造している。

2. タスマル地区調査

タスマル地区はチャルチュアパ遺跡では、南に位置している。この地区では、1940年代と1950年代初めに発掘が行われたが、建造物の発展段階が考古学的に明らかにな

っていない。

2005年に名古屋大学の考古学調査が開始した。調査目的の一つは、この地区の建築史に関する仮説を検証することである(図4)。もう一つの調査目的は、タスマル地区の球戯場の存在を確認することである。

1) タスマル地区 B1-1 建造物の建築史に関する仮説

“列柱の建造物”(西基壇の上部建造物)を測量した結果、この建造物は南北30m長で独立して建てられたことが確認できた。B1-1建造物北には、“列柱の建造物”に似た建造物(北基壇)があった。北基壇は西基壇と同じ長さを持ち、それぞれの建築軸は直角に近い87度で交差している。

B1-1建造物は、大きな基壇(大基壇)の上に建っていた。大基壇は東西約73m南北87mであった。北基壇と西基壇は大基壇の一部と成っていた。この基壇2基は類似しており、同時期若しくはなんらかの関係を持って、独立して建造されたことが考えられる。

西基壇と北基壇の測量成果を用いて、南基壇の位置を計算した。同様にして建築における対称軸を想定すると、東基壇の位置が計算できた。

B1-1建造物の東側には、この建造物に接して平面で約4×3mの小さな構築物がある。西基壇の建築軸を東に延ばすとこの構築物の中心を通る。

西基壇の上部の建造物は“列柱の建造物”として知られ、方形の柱群と左右対称に南北で各1部屋ある。西の階段を上ると北と南の部屋の間には2つの柱が建っている空間がある。この空間が奥への入口となっている。北の部屋の出入口は東側のみにある。

B1-1建造物(階段状ピラミッド基壇)が造られる前の主神殿については、以下の可能性がある。中心となる基壇は北基壇と西基壇が交差する部分にあり、西基壇は当初主要な神殿として機能していた。

仮説に従えば、この神殿はB1-1建造物の建築軸の北13mにあったと考えられる。西基壇の北の部屋の入口は東側にあるため、西基壇の後ろに建造物があり、この上部の建造物が主神殿として機能していた可能性がある。

そして、タスマル地区の建造物の発展は次のように考えられる。主神殿と4基の基壇を東西南北に建造した。西基壇は、主神殿に至る正面の入口を持つ建造物として機能していた。次に、基壇4基の間にある空間を充填し、65×74mの巨大な基壇(大基壇)となった。その後、この大基壇の上にB1-1建造物(ピラミッド)が主神殿を覆うように建設された。

2) 調査成果

タスマル地区における居住は先古典期後期に始まった。B1-1建造物は古典期前期には原形ができていたようである。それより以前の建造物については確認できなかった。古典期後期には、平石の建造物が建設された。そののちに自然石の建造物が建てられた。さらに、切石も建築材と用いられたようである。

3. エル・トラピチェ地区調査

2012年に、カサ・ブランカ地区とエル・トラピチェ地区で地下レーダーを使って、石彫の存在の有無やその配置を解明する目的で調査を行った。

先古典期中期における石彫文化はオルメカ文化に代表されるように、石彫が整然と計画され配置されていた。また、先古典期後期は、メキシコのチアパス州からグアテマラそしてエル・サルバドルまでの太平洋岸から高地に至る地域では、イサパ・カミナルフユ様式の石彫文化が栄えていた。この石彫文化を代表するイサパやタカリク・アバフ遺跡では建造物に関連して石彫が整然と並んでいた。こうした石彫文化のメソアメリカ南東端での様相をチャルチュアパ遺跡で明らかにすることとした。

チャルチュアパ遺跡では、先古典期中期から後古典期までの石彫が出土している。今回は先古典期中期～後期の石彫文化を明らかにするために、カサ・ブランカ地区で先古典期後期の石彫文化を、エル・トラピチェ地区で先古典期中期の石彫文化を調査することとした。カサ・ブランカ地区では、素面の石碑や丸彫りの石彫が建造物の近くから出土している。エル・トラピチェ地区では、地区最大の建造物の基線上に並んで出土していた。建造物と石彫の関係が密接であることが明らかである。建造物周辺の低い部分において、地下レーダー探査をすることにより、石彫の存在の可能性を探ることとした。

チャルチュアパ遺跡群において最大のE 3-1ピラミッド神殿基壇正面で、先古典期後期に属す「様式化されたジャガー頭部」と呼ばれる石彫2基と石碑の破片を1点発掘した。また、1960年代末に同農園内で行われたペンシルバニア大学による調査で出土した半分に割れた「様式化されたジャガー頭部」や石碑片等5点の石彫とともに、すべてイロパango火山の降下火山灰に直接覆われた。

おわりに

カサ・ブランカ地区では先古典期中期末から後期初頭にかけて居住が始まったと考えられる。この時期には、エル・トラピチェ地区では既に大きな建造物が造られていた。

先古典期後期若しくは終末期に都市の拡大化がエル・トラピチェ地区から始まり、南に向かった可能性がある。それ以前は、集落があった。しかし、この時期にはすでにエル・トラピチェ地区では大きな建造物が造られていたことを考えると、エル・トラピチェ地区に属する集落があったと考えられる。そして、次にはカサ・ブランカ地区に都市が拡大したことが考えられる。そして、最後に、古典期前期にタスマル地区に都市化の波が押し寄せたのである。

参考文献

伊藤伸幸・柴田潮音

2007「チャルチュアパ遺跡タスマル地区 B1-1 建造物南側より出土した供物に関する一考察」『名古屋大学文学部研究論集』53(158) : 13-28.

伊藤伸幸・柴田潮音・南博史

2009 「チャルチュアバ遺跡（エル・サルバドル共和国）の先古典期後期に関する一考察」『名古屋大学文学部研究論集』55(164)：55-79.

Ito, Nobuyuki (ed.)

2010 *Casa Blanca, Chalchuapa, El Salvador*. Universidad Tecnológica de El Salvador, San Salvador.

Ito, Nobuyuki, M. Kimura, T. Watanabe y S. Shibata

2012 "Reconstrucción de la agricultura prehispánica en El Salvador anterior a la erupción volcánica, a través del análisis de suelos", en *XXV Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, pp. 779-787.

Ito, Nobuyuki y S. Shibata

2007 "Las investigaciones arqueológicas en Tazumal, 2005-2006", en *XX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, pp. 709-722.

2008 "Las investigaciones arqueológicas en Tazumal, 2006-2007", en *XXI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, pp. 325-336

Ito, Nobuyuki y S. Shibata

2013 "Estructuras encontradas en Tazumal, Chalchuapa, El Salvador", en *XXVI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, pp. 353-366.

Ito, Nobuyuki, S. Shibata y H. Minami

2003 "Los resultados de las investigaciones arqueológicas de la tercera y cuarta temporada en la trinchera 4N del área de Casa Blanca del sitio arqueológico Chalchuapa (2000-2001)", en *XVI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, pp. 923-928.

Kato, Shinya, S. Shibata y N. Ito

2006 "Las investigaciones arqueológicas en Tazumal, 2004-2005", en *XIX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, pp. 197-206.

Murano, Masakage, M. Kudo, A. Ichikawa, N. Ito, y S. Shibata

2011 "Los entrierros encontrados en Tazumal, Chalchuapa", en *XXIV Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, pp. 709-716.

S., Shibata, N. Ito, K. Tanaka y Y. Tanaka "Resultados del sondeo geofísico en las áreas de El Trapiche y Casa Blanca, Chalchuapa, El Salvador." In *XXVII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, pp. 461-472, 2014.

Sharer, Robert J.

1978 *The Prehistory of Chalchuapa, El Salvador* Vols.I-III, The University Museum, University of Pennsylvania, Philadelphia.

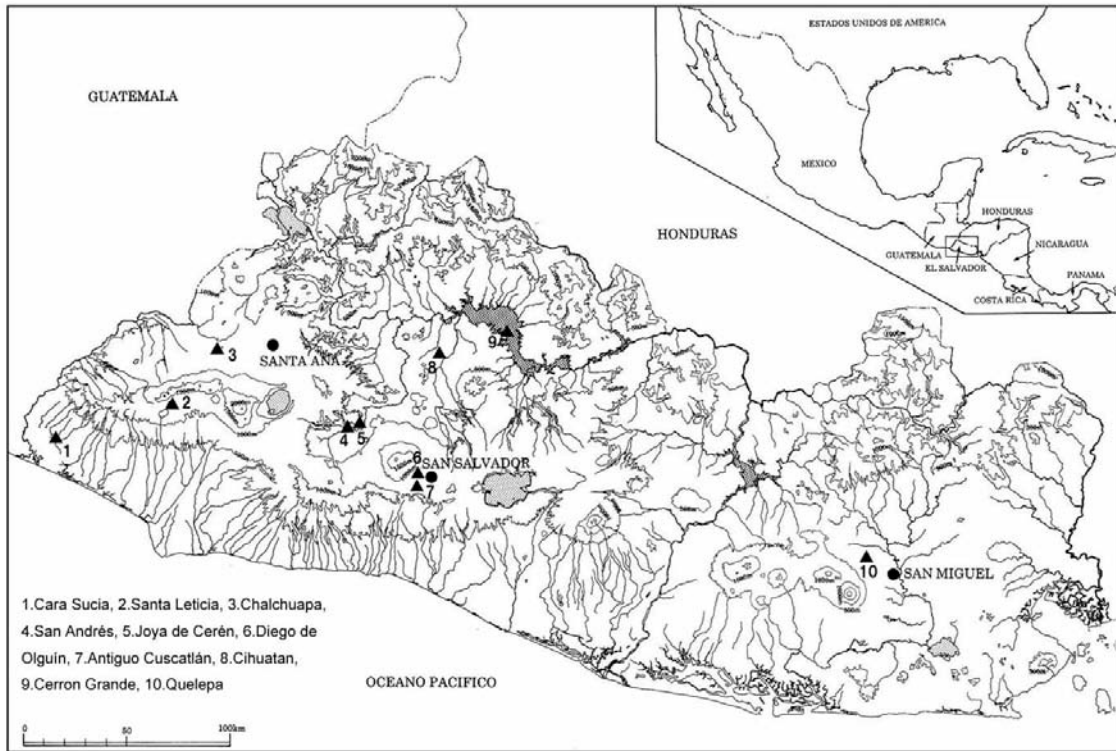


図1 エル・サルバドルの主要な遺跡

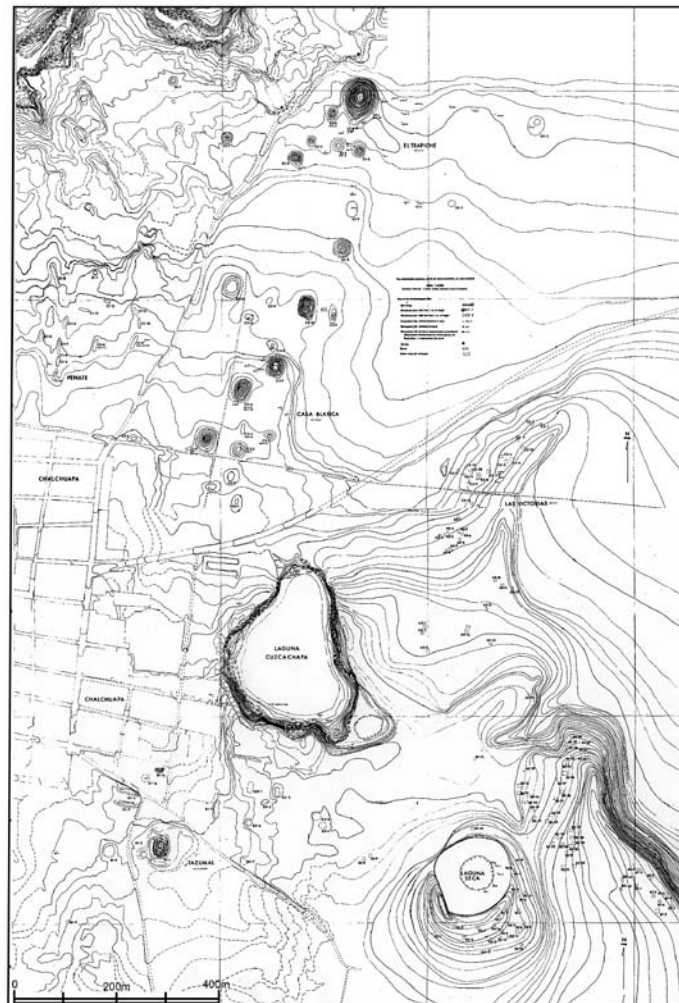


図2 チャルチュアパ遺跡群

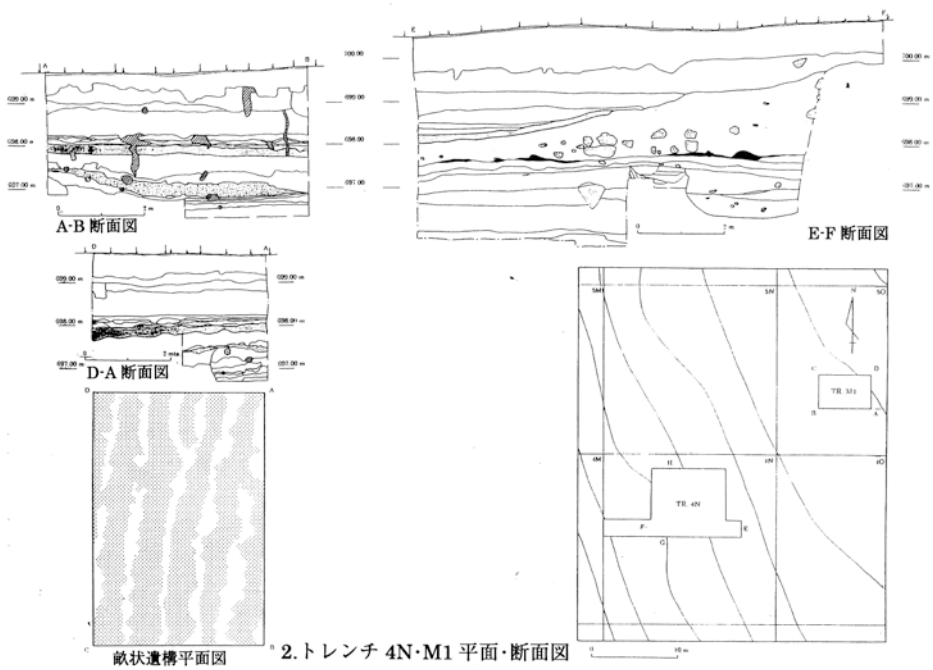
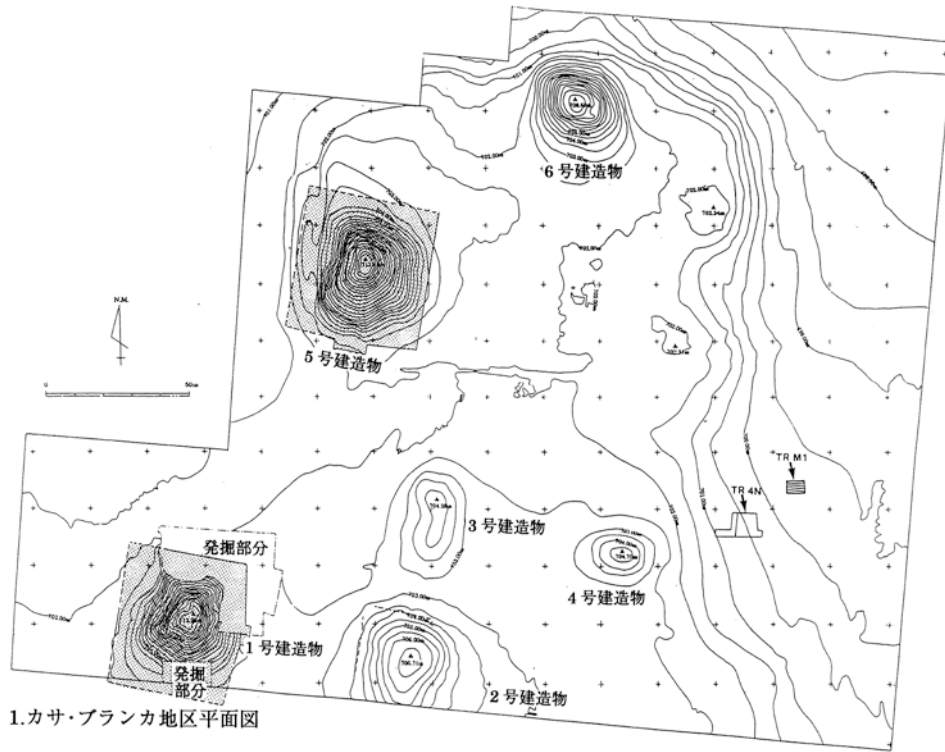


図3 カサ・ブランカ地区考古学調査平面図・断面図

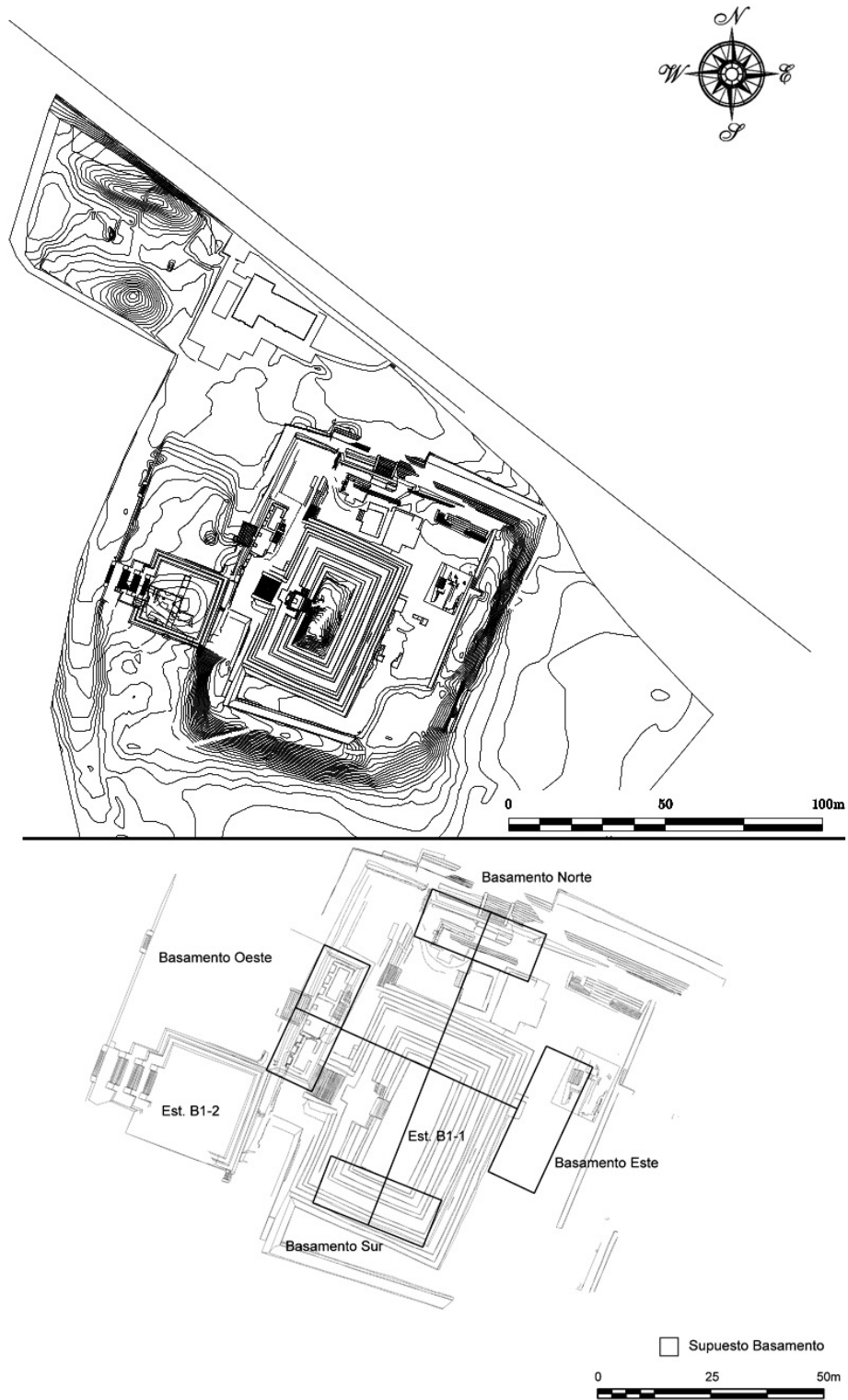


図4 タスマル遺跡主要部と仮説

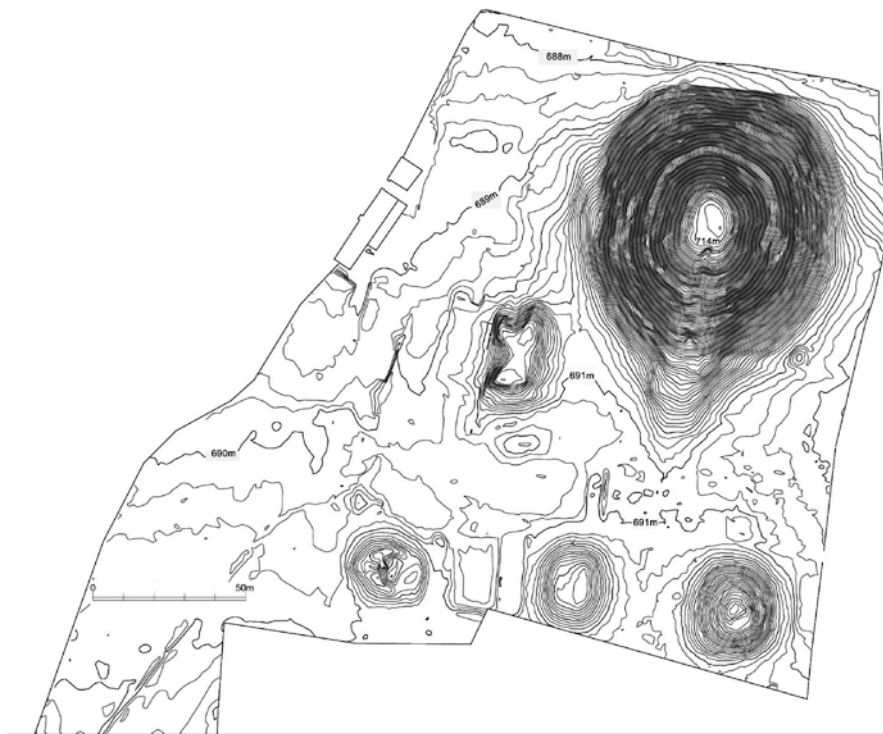


図5 エル・トラピチェ地区発掘調査